

小林正人「景気循環」研究序説－資本主義経済において景気循環は必然的か－

第3章 景気循環と設備投資競争に関する理論的説明

疑問点 論点

好況が長く続いた時の設備投資競争を抑制し、好況でなくなった時の縮小スパイラルを防ぐ方法はないのか？または設備投資競争はそもそも抑制したほうがいいのか？ P29

- A：資本主義の国なので、不況下で企業が淘汰されるのは仕方がないこと。
- B：設備投資の抑制ではなく、縮小スパイラルの抑制をすることが大切。そのために人員削減はしないで、雇用の社会的な維持に努め他の産業への転換や職業訓練や再就職支援に企業が努める。
- D：設備投資競争を抑制しないで、縮小スパイラルを防ぐ方法として企業がひとつの分野にこだわらず幅広い分野に広げる。結果、需要が上がり雇用も増える。
- C：設備投資競争は抑制せずに、縮小スパイラルを防ぐための手段として雇用を安定させることで消費需要を縮小させない。例として、**税金を利用して国の全面的支援の下で職業訓練**を行うことや、**必要な衣食住の提供**を挙げる。

C 班の意見に対するコメント

- A：税金を利用するということは、税金をさらに上げることになり国民の負担が増えて消費需要が減り税金が安定しない。
- B：税金を増やすということは、国民の負担が増える。企業に対する税金をかけたときは企業が海外に流出して雇用が減る。結果的に縮小スパイラルを防ぐことはできないのではないか。
- D：税金を利用して国の全面的支援というよりは、ひとつの企業で職業訓練まで支援するべき。